

参加レポート

講演とシンポジウム

多職種協同で行う 在宅での口腔機能向上と栄養管理

—新川厚生センター主催研修会—

三月十二日、新川厚生センター主催の研修会が黒部国際文化センターで開催され、医療・福祉関係者らが多数参加しました。

講演された南温先生は、「生きる力を支援する包括的口腔ケア」と題して、多職種が連携して包括的口腔ケアを行うには、まず「口腔ケア」が単に口腔清掃だけを指すのではなく、「口腔機能」を維持・回復・向上させるためのケアである、

という共通認識を持つことの重要性を強調しました。

口腔イコール歯科領域では、すなわち「口腔機能」とは、呼吸・構音・摂食の三つの機能を指し、摂食機能には、捕食・咀嚼・嚥下機能が含まれる。また「包括的口腔ケア」において歯科が主に担当するのは捕食・

咀嚼に係わる部分にすぎない。したがって「包括的口腔ケア」を実践するために領域という既成概念を捨てて、全身における口腔機能分野と認識し、多職種が連携して行う必要がある、と説明しました。



また摂食機能というと、歯科では咀嚼、医科では嚥下ばかりが取り上げられているが、実際には捕食・咀嚼・嚥下の運動した三つの機能がケアされなければなりません。医療スタッフ・歯科スタッフ等、関係する全ての職域が連携・協力して行う必要があると述べました。

黒部市の藤岡照裕先生は医療機関の立場から、PEG管理をする在宅患者について、PEGなどの経管栄養・訪問看護師の方より口腔機能向上と栄養管理について報告がありました。

在宅患者のPEG管理

「口から食べる」を支える
嚥下リハと口腔ケア

「在宅でも施設でも高齢者の願いを多職種連携で支援しよう」

日時 八月八日(日) 午後一時~四時半
会場 新潟大学副学長 山田好秋先生

- PEG(胃瘻)を取り巻く現状
1. 医療経済の問題: 病院在院日数の短縮化(退院の手段?)
 2. 福祉施設におけるマンパワー不足(施設によっては入所条件)
 3. 容易に胃瘻が作れる造設キットが多種存在

↓

安易に胃瘻が作設されているのではないかとの疑い(PEG新規造設: 現在年間約20万件、2025年には100万件突破?)

今こそ歯科訪問診療に踏みだそう!

「口から食べたい」を支える包括的口腔ケア

講師 南温先生

日時 七月十六日(金) 午後七時半
会場 フコク生命ビル 2Fホール

利用者さんのQOLを高めます

訪問看護ステーションふかがわ

村井敏美



在宅医療の現場では年々多職種連携の機運が高まり、チームケアが充実しつつあります。最近では訪問薬剤師さんの活躍がめざましく、利用者さんのQOL向上に大いに貢献しています。

しかし、一方では在宅の現場はまだまだケアの厚みが足りないと感じています。それは人の命の根幹をなす「食べる」ことへの支援について私たちが力不足を感じている点です。栄養管理非常に重要なですが、中でも歯の健康、口腔機能の改善にも繋がるものと考えられます。現時点では、制度上、さまざまな障壁もあるとは思われますが、制度は後からついてくるものだとも言えます。是非、先駆的な歯科の先生方の在宅チームへの参画を希望します。

誤嚥性肺炎の予防になると信じ地道に続けてきた

朝日町・大菅歯科医院 大菅明

炎は四分の一に減らすことができる」「誤嚥性肺炎は歯ブラシ一本で予防できる。これほど安価で効果的な治療法は他にない」。平成十三年頃に米山先生の講演を拝聴し、深く感銘を受け、私は訪問を始めました。

まずスタッフ全員で静岡に行き、米山先生の講義、実習を受けました。その翌月には、誤嚥性肺炎と口腔ケアに関する調査を厚労省とまとめ上げ、そこから介護保険や健康日本21の大きな事業に発展して行きま

口腔ケアが県議会でも話題に

二月県議会でも多職種連携と高齢者の口腔ケアについて質疑が行われました。取り上げたのは火爪弘子氏(共産)。

火爪議員「私生活も厭わず地域と患者さんの為に頑張る医療機関を物心両面から支援してほしい。高齢者の死因には嚥下障害、誤嚥による肺炎も多く、口腔ケアは大きな課題。今後、歯医者さんとの在宅や医療連携を考える動きがあると聞く。県としてどう取り組むのか。」

厚生部長「高齢者にとって生活の質の向上や栄養状態の改善の観点から包括的な口腔ケアは重要と考えている。今後は、新川厚生センターでの取り組みも参考にしながら、歯科医療の関係者、栄養士なども含めた多職種の連携の強化に努めていきたい。」

現在、当院では誤嚥性肺炎の予防目的に、特別養護老人ホームや老人保健施設、居宅や病院など様々な場所に訪問診療を行っています。老人ホーリーの講演では、米山武義先生の講演です。「徹底的に口腔ケアを行うことで、誤嚥性肺

炎の予防目的に、特別養護老人ホームや老人保健施設、居宅や病院など様々な場所に訪問診療を行っています。老人ホーリーの講演では、米山武義先生の講演です。「徹底的に口腔ケア

を行って、米山先生の講義、実習を受けました。その後活動を多くの方から評価していただき、感謝申し上げます。

朝日町と当院の地道な訪問活動によつて、米山先生の講義、実習を受けました。その翌月には、スタッフがボランティアという形で特養に義歯を洗いに行くようになり、活動によつて、米山先生の事業に発展して行きました。一方、私は特養へ訪問する傍ら、入居者全員は「発熱者が約三分の一に

なり喜ばれた事例や最近では訪問歯科診療による義歯調整のおかげで嚥下訓練がスムーズに進み、嚥下訓練能が改善した事例を経験し、嚥下訓練にも歯の調整が大切だということに気付きました。歯の治療、義歯や噛み合わせの調整によりおいくつ食べる事で、口腔内の衛生を保持して誤嚥性肺炎を予防することは全身状態を改善し、心も活性化する全般的ケアではないかと思います。

私は